

第25回矢板たかはらマラソン 参加者の声

★千葉県から参加の78歳の女性

51歳から走り始めて今年で二十七年。去年は最高齢賞をもらえたが、今年自分よりも三、四日早く生まれた人がいて、残念ながらもらえなかった。しかし来年も参加したいと強い想いを語ってくれた。



★埼玉県から父親と共に参加した小一男子

完走後、りんごを食べているときにインタビュー。去年と今年で二度目の参加。走った後のりんごがとてもおいしいと笑顔で答えてくれた。



★宇都宮市から参加の71歳の女性

宇都宮市に前泊し、埼玉県から参加の小一男子・小三女子の二人の孫について語ってくれた。

一年から三年のコースで、小三の姉が三十三位で、小一の弟が七位。弟は六位入賞で、なかなか悔しかった。私としては良い成績だと思っが、本人は負けず嫌いな性格なので、来年が楽しみだと話してくれた。



シルバーエイジも頑張りました

十月三十日、矢板市運動公園で矢板市シルバースポーツ大会が開催され、各シニアクラブ加入の約三百八十人の方が軽スポーツを楽しみました。

矢板市シニアクラブ連合会（会長 長谷川健さん）が、単位クラブの方の協力で準備、設営、大会運営を行いました。

特に血圧測定は力を入れて、おしりでも風せんを割る競技で、これはネーミングも面白い。

シニアクラブ会員の方々に聞きました



また、「山田高砂会」では、各競技に出場して得た景品を一個所に集めていたので、聞いたところ、この大会の後、地元公民館で慰労会をするのでそこで分けるよ。この大会に出場しなかった会員の方々が料理を作って準備していた、特に豚汁が楽しみのこと。会員数41名（男20名・女21名）

■シルバースポーツ大会ならではの種目

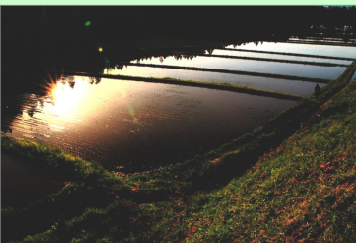
足が速い人が一位になるとは限らない競技があるので、面白い。例えば、スプリンレーズ・輪投げ・ピン釣り競争・迷い箸競争など。



針生地区では、以前からあった会が、会長のなり手が見つからなかったために、解散してしまっ。しかし、会長を区長が兼務することで三年前から「はまぎくの会」として活動再開。これにより、解散の心配がなくなっ。他地区と違う印象を受けたのでクラブ名の由来を聞いたところ、花言葉を重視したとのこと。はまぎくの花言葉は「逆境に強い。友人の愛」。

六十歳未満の会員もいるので、これからの会員の活躍が期待できそう。会員数61名（男24名・女37名）

もう一つの楽しみ 昼休みの間に矢板音頭・ハワイアンダンス・よさこいソーランなどをみんなで踊ってスポーツ大会を盛り上げた。（T・M・K・H）



大賞作品「希望の朝」 志賀 実氏

【入賞作品】

- 大賞 「希望の朝」 志賀 実氏
- 特選 「田植えの季節」 伴 敏子氏
- 準特選 「苗はこび」 半田 信一氏
- 「ママ手伝うよ！」 杉山 太郎氏
- 「早朝の棚田」 大屋 信幸氏
- 「田植えのころ」 斎藤 寛氏
- 「収穫祭にて」 矢野 隼三氏
- 「田播き中」 五十嵐 毅氏

第3回棚田の写真コンテスト

十一月三日、第二農場多目的集会施設で兵庫畑の棚田をテーマにした写真コンテストの表彰式が行われました。写真の審査は、棚田オーナーの方を中心に応募作品26点の中から投票で決定しました。入賞作品は12月7日～21日に郷土資料館、その後山の駅たかはらで展示する予定です。来年のコンテストにも、たくさんのご応募お待ちしております。